

# 北川湿原(家田・川坂湿原)の概要

- ◎ラムサール条約湿地潜在候補地・・・H22(2010)
- ◎宮崎県の重要生息地・・・・・・・・・・H20(2008)
- ◎日本の重要湿地500・・・・・・・・・・H13(2001)

北川湿原は、宮崎県延岡市北川町の家田地区と川坂地区に広がる約20haの湿地で、家田湿原(18ha)と川坂湿原(2ha)を総称して「北川湿原」と呼んでいます。絶滅危惧種の動植物が50種以上生息し、国内でも学術的に極めて価値の高い湿原です。



川坂湿原



家田川の溝さらえ

ここは、人の営みと共存した水辺環境であることが特筆すべきポイントです。高速道路・県道・市道が湿原のすぐ脇を通り、周辺には民家が建ち並んでいます。家田川と川坂川は、農業用水・排水として利用され、稲作などが現在も続けられています。こうした環境の中で希少動植物が絶えることなく今日まで残っているのは、見方を変えれば、人の営みが湿原を守ってきたとも考えられます。地元で百年以上続く「溝さらえ」と呼ぶ共同作業は、湿原に軽度のかく乱をもたらし、種の保全に大きな役割を果たしているのかもしれない。

## 日本最大級の コウホネ群落

湿原を代表するものは、コウホネと呼ばれるスイレン科の植物。家田川と川坂川に数多く生育し、その規模は日本最大級。葉っぱがスイレンに似ていて、水上に伸びた細長い茎に黄色い花が付き、5月から11月まで観賞できます。

北川湿原は、タテ科植物が多いのも特徴です。サクラタテ、サテクサ、ナガバノウナギツカミなどが群落を形成し、10月には湿原をピンク色に染め上げます。キタガワヒルムシロと呼ばれる固有の植物などもあり、四季を通して多種多様な草花で楽しむことが可能です。



この湿原は、「トンボの楽園」と呼んでも過言ではありません。40種を超えるトンボが確認されていて、そのうち13種は絶滅危惧種。特にイトトンボの仲間が多く生息し、代表的なものはグンバイトンボ。雄の中足と後足の4本に、白い葉っぱのようなものが付いています。それが、相撲の行司さんが持つ軍配に似ていることからグンバイトンボの名前が付けられました。3~4cmの小さなトンボで、5月から7月にかけて見られます。

トンボ以外にも、メダカ、ドジョウ、ナマズ、ゲンゴロウ、アメンボ、イシガメなど、絶滅危惧種に指定された魚や水生生物を日常的に観察することができます。北川湿原は、驚きと感動の水辺なのです。



グンバイトンボ



家田湿原巡りウォーキング

2010年(平成22年)、ラムサール条約湿地潜在候補地に指定されるのと時を同じくして、家田湿原に「家田の自然を守る会」、川坂湿原に「川坂川を守る会」が設立されました。湿原の保全に努めながら観察会、ウォーキング大会を開催するなど、精力的な活動を展開しています。2012年(平成24年)の東九州自動車道の開通を機に地元では、湿原という地域の宝を活かし、新たなステージに向けたまちづくりに取り組んでいます。



家田湿原の野焼き